

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：34406

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00747

研究課題名（和文）デザイン系分野に特化した英語アウトプット能力養成教材の開発

研究課題名（英文）Development of Learning Materials Specialized in Design Fields for Training Productive Skills in English

研究代表者

村尾 純子（Murao, Junko）

大阪工業大学・ロボティクス&デザイン工学部・准教授

研究者番号：40611314

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：建築、プロダクトデザイン、ヴィジュアルデザイン、インテリアデザインなどのデザイン系分野を専攻する学生が自分たちのデザインを英語発信するための英語力を養成する教材の作成を行った。デザインコンセプトを提示し、それを描写するのに必要な語彙や構文をインプットした後に、アウトプットしてみる教材である。文字情報だけでなく、作品のカラー写真も見ながら、色、テクスチャー、形、雰囲気などの描写の仕方を学びながら、段階を経て伝える力を養成する。専門用語を覚えながら平易な英語で表現することを学ぶ教材である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

建築やプロダクトデザインを英語で発信するための市販の教材は存在するが、中級レベル以上のものが多く、大学でデザインを学ぶ学生にとっては専門的すぎる内容でもあり、大学でデザインを学ぶ学生のニーズに即したものはなかったため、実態に合った英語学習教材を生み出すことができたところに本研究課題の成果の意義はあると考える。大学生の活動においては、対学生、対教員や専門家に対してコンセプトの説明を行うため、専門用語を多用して説明するよりも、多くの人に理解できるような平易な言葉が選ばれる場合が多い。大学生が知っている語に少し専門用語をプラスすることで、伝えたいコンセプトを伝えられる教材になっていると考える。

研究成果の概要（英文）：We have created educational materials for students majoring in design-related fields such as architecture, product design, visual design, and interior design to develop English language skills for communicating their designs in English. This is an English learning material, in which students are presented with design concepts, learn vocabulary and hint expressions necessary to describe them, and then try to explain the concepts in English. Students will learn how to describe colors, textures, shapes, and atmospheres by looking at color photographs of products as well as reading textual information, and will develop their ability to communicate step by step. This material enables students to learn to memorize technical terms and describe the concepts in easy English.

研究分野：English education

キーワード：ESP Design English language acquisition

1. 研究開始当初の背景

建築、プロダクトデザイン、ヴィジュアルデザイン、インテリアデザインなどデザイン系の分野の学生たちは、論文の発表よりもむしろプレゼンテーションによる発表の方が多い。市場にはデザイン系の英語アウトプット教材はあまりなく、あったとしても専門性が高く、学生の初心者レベルのものはない。自分たちのデザインを平易な英語で紹介できるようになる教材があれば、英語で発表する能力が段階的に身につくのではないかと考え、本研究課題の発案に至った。

英語のスピーキング能力を向上させたい多くのデザイン系の学生のニーズに答えて、本研究では、正課授業の助けとなり、学生の英語での発話機会を増やせるようなデザイン分野の英語自習用学習プログラムを設計することを目標とした。

2. 研究の目的

海外の学生との共同プロジェクトに参加する学生が英語が使えないという意見は多く聞かれるが、正課授業では基礎学力を養成することに重きを置いており、実際のプロジェクトにおいて使われる英語を養成するのに割ける時限的余裕がない実情がある。海外の学生と共同で行うプロジェクトで使える英語力の養成をしたいのであれば、やはりそれに特化した教材が必要である。そのようなプロジェクトで使用する英語に特化した教材を開発できれば、即利用できる英語力の養成につながると思われる。現在、海外プロジェクトに参加する学生は正課授業とは別に留学のための英語授業を受講してはいるが、海外に出発直前になされる短期集中型の授業であるため、学習の成果をなかなか実地に活かせるまでに持っていきにくい。そこで、本研究課題の学術的問いは、正課の補助教材としても、自習用教材としても利用できる、建築、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、ウェブデザインといったデザイン分野に特化したスピーキング教材によって、アイデアを述べる、問題点を議論するといったプロジェクトに生かせる英語力を養成する教材を開発することによって、実践的な英語力を学生に身につけさせることができるようになることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究課題に取り掛かる前に集めていた資料はあったが、現場でどのような発表がなされているかを調べるのもこの課題の目的であった。研究分担者の赤井、郡の授業を参観し、発表の様子をビデオに収めたり、学生が自分たちで作った作品に関してインタビューを行ったりした結果、想定していた内容と実際の現場で行われている発表内容に齟齬が生じ、あらためて内容の精査が必要になった。授業現場から抽出した要素をもとに教材を作成した。また、実際にアート系の展示会や他美術大の卒業制作展などを訪れて、英語使用の状況を調査したりもした。デザイン分野の学生はポートフォリオに自分たちの作品を載せて、就職活動等に使用するが、ポートフォリオからデザインコンセプトを借用し、英文素材として使用させてもらった。

4. 研究成果

建築、プロダクトデザイン、ヴィジュアルデザイン、インテリアデザインなどのデザイン系分野を専攻する学生が自分たちのデザインを英語発信するための英語力を養成する教材の作成を行い、それを成果報告書(教材編)としてまとめて印刷し、授業等でも利用できるものとした。デザインコンセプトを提示し、それを描写するのに必要な語彙や構文をインプットした後に、アウトプットしてみる教材である。文字情報だけでなく、作品のカラー写真も見ながら、色、テクスチャー、形、雰囲気などの描写の仕方を学ながら、段階を経て伝える力を養成する。専門用語を覚えながら平易な英語で表現をすることを学ぶ教材となった。

本音を告白すると、本科研課題を考案した当初は、今までの経験に基づいてある程度容易にデザインの英語を習得する教材は作成できると推測していた。また、あくまでもESP教員としての立場は崩さず、プロダクトデザインや建築の分野のプロジェクトから素材を集めれば、それなりの教材になると高をくくっていた。だが、実際に授業参観をし、学生の発表を見たり、専門教員の指導の現場を見ることで分かったのは、扱う分野を2分野に絞ったとしても、その内容は無限に多岐にわたり、具体的なものから抽象的なものまで、理系的なものから文系的なものまで、扱う範囲が広く、ひとえに英語学習教材といっても何を扱えばよいのかという難題にぶつかることになった。ESPの基本的な考え方では、専門のことは専門教員に任せ、英語教員は専門英語を読む際に必要な共通のスキルを涵養する役目を果たす、ということになるが、やはりどうあっても専門知識がないと太刀打ちできない部分は多く、その意味においても、教材作成はかなり難航した。結局のところ目指したのは、それぞれの分野のプレゼンテーションで求められる、作品の意図、仕様、特徴といった情報であり、それを表すにはどのような構文、語彙、熟語を用いるのかといったことを学べる教材作成を目指していたが、人間の創作活動の幅広さと、奥行きを深さを改めて知り、限界を感じながらもなんとか学生に英語で発信できるようになってもらいたいという思いで作成したということだけはここに記し、本研究課題を完了した。

本研究課題では、主に英語教員の村尾の視点で、英語学習教材を作っていくにあたり、プロダクトデザイン分野が専門の赤井と、建築の専門家の郡に依頼したのは、素材の提供と、授業への訪問および見学、展示の閲覧、監修であった。ESP (English for specific purposes) の理論的な考えを軸にして、できる限り分野ごとによく使われると思われる語彙やフレーズを使って教材を作成することに努めた。やはり、かなり限界もあって、それぞれの分野特有の言い回しがあったり、語彙の意味は分かるけれど、それが具体的に何を指すのかが分からなかったりしたものは省いて作成しなければならない場合もあった。そのため、教材がターゲットとする学習者は、専門分野の知識という点でも初歩レベルの学習者が対象となった。当然のことながら、英語だけを専門とする人間では対応しきれないところが多かった。デザインの専門家がより高度な内容を英語で発信するための素材を選定し、それをもとに英語学習教材が作成する必要性を痛感した。だが、一般英語学習で触れることのない語彙を知ることができるという点と、知っている構文や、熟語を駆使すれば、あとは専門語彙を覚えるだけである程度のことは表現できるということは知ることができる。デザイン英語入門としては役立つ教材ではあると思われる。

教材内容事例 1) 語彙リスト

プロダクトデザイン分野

A. 抽象的概念、抽象名詞

和訳	品詞	英語
気分	名詞	mood
有用性	名詞	usability
美意識	名詞	aesthetics
実用性	名詞	practicality
愛着	名詞	attachment
ちょっとしたイライラ	名詞	slight annoyance
魅力	名詞	attractiveness
具現化、具現化したもの	名詞	manifestation
優美さ	名詞	elegance

教材内容事例 2) 構文を学習する

Learn Useful Expressions

デザイン系の分野では自己紹介は必須のジャンルです。自己紹介でよく使われる表現を学びましょう。どこを拠点として活動している、何者なのかを盛り込みます。

例)

ジェリー・スミスは ロスを拠点として活躍する ワードローブスタイリスト です。

Jerry Smith is a Los Angeles-based wardrobe stylist.

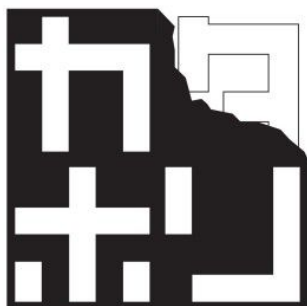
では、次の日本語を英語にしてみましょう。

1. 彼は東京を拠点として活躍する建築家です。

教材内容事例3) 構文を学習する

Your idea

カタホリという名前は形を彫っていく遊びに由来する。「タ」の部分は彫っている様子を表現し、遊び方を知らない人でもある程度推察できるようにした。



Learn Vocabulary

～に由来する	come from ...
彫る	carve
表現する	represent
ある程度	to some extent

Describe it in English

The name "katahori" comes from a game of carving shapes. The "タ(ta)" part represents the process of carving, so that even those who do not know how to play can guess the game to some extent.

教材の使用感調査結果

最後に、本教材の試作品を使って学習してくれたシステムデザイン専攻の学生の感想を載せておきたい。彼はデザイン系の学生ではなかったが、研究に協力をしてくれた。プロダクト、インテリア、建築、ヴィジュアルデザインの中で興味があるのは建築と解答した。教材の難易度は「自分にはちょうど良い」と述べ、教材の中では、プロダクトデザインのコンセプトが気に入った教材が「面白かった」が、建築の教材では、単に場所についての描写をしているものは「面白くなかった」と回答した。どのような問題があれば理想だったかという質問には、「グッドデザイン賞を扱った問題(英語を勉強しながらデザインの勉強もすることができる)、4コマ漫画を使った問題(実際に自分がその場にいるかのような感覚で勉強することができる)」と答えてくれた。

コロナ・パンデミック、オンライン授業の対応といった事情もあり、3年という期間は色々不都合なことも多く、最終的にこの教材を e-book 化して学生に利用してもらうところまでは完成できなかったことが悔やまれる。今後この教材を学生利用可能な状態に成形し、本研究課題の成果としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	郡 裕美 (Kori Yumi) (70780013)	大阪工業大学・ロボティクス&デザイン工学部・教授 (34406)	
研究分担者	赤井 愛 (Akai Ai) (90578832)	大阪工業大学・ロボティクス&デザイン工学部・准教授 (34406)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関